

東京都障害者ピアサポート研修 概要

概要

自ら障害や疾病の経験を持ち、その経験を活かしながら、他の障害や疾病のある障害者の支援を行うピアサポーター、ピアサポーターの活用方法等を理解した障害福祉サービス事業所等（以下「事業所」という。）の管理者等の養成を図る。

研修の対象

1 施設・事業所で2名ずつ

- 障害当事者で、都内障害サービス施設等においてピアサポーターとして従事する（予定の）者
- 協働する専門職（管理者等）

ピアサポーターと同じ事業所の管理者、サービス管理責任者又は地域生活支援員（経営者、現場の監督者のいずれかは問いません）

本研修で養成するピアサポーター像

- 自らの障害を受容し、障害や福祉制度に関する幅広い知識を持っている
- 同じような立場にある・同じような課題に直面している仲間として認め合い、共感し、本人に安心感を与える
- 本人にとっての身近なロールモデルとなり、希望を与える
- 管理者等の他の支援者と協働して本人に適切なケアを実践する

本研修で養成するピアサポーターと協働する専門職（管理者等）像

- 障害当事者を取り巻く課題を十分に理解している。
- 障害や福祉制度に関する幅広い知識を持っている。
- ピアサポートの意義を十分に理解している。
- ピアサポーターと協働して、本人に適切なケアを実践する。
- 状況を見て、ピアサポーターの配置や安心して働ける職場づくり等に冷静な判断を下すことができる。

実施方法

原則、対面

- ※希望する場合は、オンライン受講も可
- ※その他、当事者への合理的配慮を踏まえた実施方法を検討

規模

50名規模

- ※基礎・専門・フォローアップと段階的に受講
- ※各回25名×2回
（区部1回・市町村部1回、1回目と2回目は、同内容）
- ※1回につき計2日間

東京都障害者ピアサポート研修 概要

プロセス

基礎研修

ピアサポーター

協働

専門職

【受講者が目指すもの】
基礎知識習得・役割や価値理解の上、
自分の強みを活かすことができる 等

【受講者が目指すもの】
基礎知識習得・役割や価値理解の上、
ピアサポーターを活かすことができる 等

互いを知る

専門研修

【受講者が目指すもの】
専門性を活かした支援技術を取得し、
働く上でのセルフケアができる 等

【受講者が目指すもの】
専門知識習得・専門技術を取得し、
有効的雇用や配置を行うことができる 等

実践

フォローアップ研修

【受講者が目指すもの】
実践や振り返りを踏まえ、継続的に力を発揮するた
めに強みの再発見やモチベーションの向上を図る 等

【受講者が目指すもの】
実践や振り返りを踏まえ、継続的に力を発揮させる
ための判断力や対応力を身に付ける 等

相互理解
再確認・深める

(指導者養成研修)

(指導に必要な技術を身に付けることでステップアップを図る 等)

目指すピアサポーターの姿

目指す専門職の姿

事業所内・地域一体でピアサポーターと専門職の協働・雇用定着促進

地域共生社会の構築

東京都障害者ピアサポート研修 概要

スケジュール

※あくまでも現時点での予定となります。

R 3年度	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
カリキュラム検討	第1回	第2回	第3回		第4回	第5回		第6回
主な検討項目	・養成するピアサポーター像 ・検討課題整理	・基礎研修講義内容検討 ・基礎研修演習の検討課題整理	・基礎研修演習教材検討、ワークショップ用資料検討		・専門研修講義内容検討 ・専門研修演習の検討課題整理	・専門研修演習教材検討、ワークショップ用資料検討		・専門研修演習ワークショップ用資料検討 ・次年度引継事項整理



R 4年度	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	1月	2月
研修実施		基礎研修 2回 計4日間	専門研修 2回 計4日間					フォローアップ研修 2回 計4日間	
カリキュラム検討	第1回					第2回	第3回		第4回
主な検討項目	・前年度の振り返り ・講師の決定 ・フォローアップ研修演習の検討課題整理					・基礎研修、専門研修の反省を踏まえた検討課題再整理 ・フォローアップ研修教材検討、ワークショップ用資料作成	・フォローアップ研修ワークショップ用資料作成 ・講師の決定		・フォローアップの反省点の振り返りと年間まとめの回

東京都障害者ピアサポート研修 概要

各回の研修実施案

各回25名 → 5人グループ×5の計5グループ

グループ分けは、演習により
当事者と当事者以外が混ざることも想定

講師(講義担当)

● : 受講者
★ : ファシリテーター (演習担当)

Aグループ

★ 専門職等

★ 障害当事者

Bグループ

★ 専門職等

★ 障害当事者

Cグループ

★ 専門職等

★ 障害当事者

Dグループ

★ 専門職等

★ 障害当事者

Eグループ
オンライン希望者
2名(仮定)含む

★ 専門職等

★ 障害当事者

P
C

オンライン参加者と
やり取り

東京都障害者ピアサポート研修 概要

基礎研修カリキュラム 1日目

全体通して講師の人数等は妥当か
当事者とは、ピアサポーター又はこれに
準ずる障害当事者をいう

全体通して講義・
休憩の時間は適切か

項目	概要	講師	項目別 主な検討事項	時間	国テキスト 該当頁
1 ピアサポート の理解	<ul style="list-style-type: none"> ● 障害領域ごとの歴史や背景 ● 障害領域ごとの視点 ・(例)難病の場合、ピアサポーターから話を聞くことで、病気への理解を深める。 	・当事者1人	●障害領域ごとの視点の講義内容は、テキスト内容の補足が必要	10時30分～ 11時00分 (30分)	p.3～p.6
2 演習①	<ul style="list-style-type: none"> ● 講義1の振り返り、気付きの共有 ・(例)「あなたの考えるピアサポートやあなたのストレンクス(強み)について、自己紹介を交えながら話し合ってみましょう。」 →所属事業所(サービス種別、障害種別)、ピアサポートとは、ピアサポートの強み等の意見交換 	<ul style="list-style-type: none"> ・当事者5人 ・専門職5人 計10人 (5グループ) 	●演習内容詳細の検討	11時00分～ 12時00分 (60分)	p.6
(60分昼休憩)					
3 ピアサポートの 実際・実例	<ul style="list-style-type: none"> ● 障害領域ごとのピアサポートの実践 ・雇用している立場からの実践報告(ピアサポーターの活躍の場の例、雇用者が感じる利点と工夫している所) ・ピアサポーターの立場からの実践報告 	<ul style="list-style-type: none"> ・当事者、専門職計5人 (各障害領域*) *精神、身体、知的、難病、高次脳 	●障害領域ごとの当事者による事例紹介を想定	13時00分～14 時10分 (70分)	p.7～p.22
(15分休憩)					
4. 演習②	<ul style="list-style-type: none"> ● 当事者:自分の経験を振り返り、体験の活かし方を話し合う ● 当事者以外:ピアサポーターの活かし方を話し合う 	<ul style="list-style-type: none"> ・当事者5人 ・専門職5人 計10人 (5グループ) 	●演習内容詳細の検討	14時25分～15 時05分 (40分)	p.21

東京都障害者ピアサポート研修 概要

基礎研修カリキュラム 2日目

全体通して講師の人数等は妥当か
当事者とは、ピアサポーター又はこれに
準ずる障害当事者をいう

全体通して講義・
休憩の時間は適切か

項目	概要	講師	項目別 主な検討事項	時間	国テキスト 該当頁
5 コミュニケーションの基本	●ピアサポートの視点を取り入れたコミュニケーション技法や経験の共有	・当事者1人	●円滑なコミュニケーションに必要なノウハウ	10時30分～ 11時10分 (40分)	p.23～p.26
6 演習③	●講義5の振り返り、気付きの共有 ・(例)『私』を主語にする伝え方で伝えてみましょう	・当事者5人 ・専門職5人 計10人 (5グループ)	●演習内容詳細の検討	11時10分～ 12時10分 (60分)	p.26
(60分昼休憩)					
7 障害福祉サービスの基礎と実際	●障害福祉施策の歴史 ●障害福祉施策の仕組み	・専門職1人		13時10分～ 13時50分 (40分)	p.27～p.30
8 演習④	●講義7の振り返り、気付きの共有 ・(例)「福祉サービスにおいて、ピアサポートがどのように活用されるのか、話し合ってみましょう」	・当事者5人 ・専門職5人 計10人 (5グループ)	●演習内容詳細の検討	13時50分～ 14時10分 (20分)	p.30
(15分休憩)					
9 ピアサポートの専門性	●ピアサポートの具体的な専門性 ●倫理と守秘義務	・当事者1人	●目指すべきピアサポーター像の設定 ●個々の強みの引き出し方	14時25分～ 15時55分 (30分)	p.31～p.36
10 演習⑤	●講義9の振り返り、気付きの共有 ・(例)「ピアサポーターの大切な強みについてどう思いますか」、「ピアサポーターと専門職と一緒にサポートすることについてどう思いますか」	・当事者5人 ・専門職5人 計10人 (5グループ)	●演習内容詳細の検討	15時55分～ 16時45分 (50分)	p.35

東京都障害者ピアサポート研修 概要

専門研修カリキュラム 1日目①

※障害領域別ではなく、共通内容での実施を想定
(障害領域を超えた意見交換・相互理解の充実も狙い)

全体通して講師の人数等は妥当か
当事者とは、ピアサポーター又はこれに
準ずる障害当事者をいう

全体通して講義・
休憩の時間は適切か

項目	概要	講師	項目別 主な検討事項	時間	国テキスト 該当頁
1 基礎研修の振り返り	●基礎研修の振り返り	・当事者1人		10時30分～ 11時00分 (30分)	p.3～p.4
2 ピアサポーターの 基礎と専門性	●障害特性に応じた専門性	・当事者1人	●リカバリーの定義付け ●障害領域別のリカバリース トリーを紹介できると良い	11時00分～ 11時40分 (40分)	p.5～p.10
(15分休憩)					
3 演習①	●講義2の振り返り、気付きの共有 ・(例)「リカバリーストーリーを書いてみ ましょう」、「各々のリカバリーストー リーを聴いてみましょう」	・当事者5人 ・専門職5人 計10人 (5グループ)	●演習内容詳細の検討	11時55分～ 12時55分 (60分)	p.10
(60分昼休憩)					
4 ピアサポーターの 専門性の活用	●障害特性に応じたピアサポーターの 専門性を活かすための視点	・当事者1人		14時00分～ 14時40分 (40分)	p.11～p.17
5 演習②	●講義4の振り返り、気付きの共有 ・事例の検討	・当事者5人 ・専門職5人 計10人 (5グループ)	●演習内容詳細の検討	14時20分～ 14時50分 (30分)	p.16
(15分休憩)					

(次のページに続きます。)

東京都障害者ピアサポート研修 概要

専門研修カリキュラム 1日目②

全体通して講師の人数等は妥当か
当事者とは、ピアサポーター又はこれに
準ずる障害当事者をいう

全体通して講義・
休憩の時間は適切か

項目	概要	講師	項目別 主な検討事項	時間	国テキスト 該当頁
6【障害者】 関連する保健 医療福祉施策の 仕組みと業務の実際	●関連法、関連施策	・専門職1人		14時50分～ 15時30分 (40分)	p.18～p.25
6【事業所】 ピアサポートを活用 する技術と仕組み	●現場におけるピアサポートの活用 方法	・専門職1人			p.26～32
(15分昼休憩)					
7【障害者】演習③	●講義6の振り返り、気付きの共有 ・(例)『自分だったらこの機関(事業所) で働いてみたい』というところがあります か、「自分自身が利用したことがなかつ たり。あまり知らないサービスについて 詳しく知るにはどうしたら良いでしょう か。情報を共有してみましよう」	・当事者3人 ・専門職3人 計6人 (3グループ)*	●演習内容詳細の検討	15時45分～ 16時25分 (40分)	p.25
7【事業所】演習③	●演習6の振り返り、気付きの共有 ・(例)「労働法令や倫理規定を正しく理 解していましたか」、「雇用する側として 困ったことはありましたか。あるとすれば、 どのように解決していけるとおもいま すか」	・当事者2人 ・専門職2人 計4人 (2グループ)* *グループ数は 回により変動	●演習内容詳細の検討		p.32
8 演習④	●障害者、事業所職員別講義及び 演習内容についての共有	・当事者5人 ・専門職5人 計10人 (5グループ)		16時25分～ 16時45分 (20分)	

東京都障害者ピアサポート研修 概要

専門研修カリキュラム 2日目①

全体通して講師の人数等は妥当か
当事者とは、ピアサポーター又はこれに
準ずる障害当事者をいう

全体通して講義・
休憩の時間は適切か

項目	概要	講師	項目別 主な検討事項	時間	国テキスト 該当頁
9【障害者】 ピアサポーター としての働き方	●労働法規	・専門職1人		10時30分～ 11時00分 (30分)	p.26～32
9【事業所】 ピアサポーターを 活かす雇用	●ピアサポーターを雇用し、協働する上 での留意点	・当事者1人 ・専門職1人 計2人	●ピアサポーターが職場や共 に働く専門職へ期待すること ●実例を踏まえた課題や留 意事項	※障害者と 事業所で別 教室で実施	p.42～p.55
10【障害者】 演習⑤	●講義9の振り返り、気付きの共有 ・(例)「労働法令や倫理規定を正しく理 解していましたか」、「雇用される側と して困ったことはありましたか。あるとすれ ば、どのように解決していけると思いま すか」	・当事者3人 ・専門職3人 計6人 (3グループ)*	●演習内容詳細の検討	11時00分～ 11時40分 (40分)	p.32
10【事業所】 演習⑤	●講義9の振り返り、気付きの共有 ・(例)『ピアサポーターがいることで、 利用者に対する愚痴を言いにくくなった と専門職がこぼしている』、『ピアサポー ターがなかなか自分の意見を言わない』、 『ピアサポーターと他の職員で意見が衝 突した』、『ピアサポーターが職場を休み がちになっている』といった場合にどう対 処しますか」、「ピアサポーターと働く上 での期待/不安はどのようなことですか」	・当事者2人 ・専門職2人 計4人 (2グループ)* *グループ数は 回により変動	●演習内容詳細の検討		p.47、p.55

(60分昼休憩)

(次のページに続きます。)

東京都障害者ピアサポート研修 概要

専門研修カリキュラム 2日目②

全体通して講師の人数等は妥当か
当事者とは、ピアサポーター又はこれに
準ずる障害当事者をいう

全体通して講義・
休憩の時間は適切か

項目	概要	講師	項目別 主な検討事項	時間	国テキスト 該当頁
11 セルフマネジメントとバウンダリー	●ピアサポーターが葛藤しやすい状況 ●病気や障害を抱えて働く上でのセルフケア	・当事者1人	●ピアサポーターが葛藤しやすい状況 ●ピアサポーターと当事者間における適切な関係性の構築方法 ●セルフケア方法	12時40分～ 13時10分 (30分)	p.33～p.37
12 演習⑥	●講義11の振り返り、気付きの共有 ・(例)「ピアサポーターが自分の病気や薬を理解するためにしている方法は何でしょうか」、「あの時バウンダリーを意識していれば良かったと振り返ることはありますか」	・当事者5人 ・専門職5人 計10人 (5グループ)	●演習内容詳細の検討	13時10分～ 13時50分 (40分)	p.37
(15分休憩)					
13 チームアプローチ	●所属機関(チーム)におけるピアサポーターの役割と協働における留意点	・当事者1人 ・専門職1人 計2人	●講師の当事者・専門職の役割と講義内容の棲み分け	14時05分～ 14時45分 (40分)	p.38～p.41
(15分昼休憩)					
14 演習⑦	●講義13の振り返り、気付きの共有 ・「ピアサポーターが協働するチームの構成員について考えてみましょう」、「チームにおけるピアサポーターの役割について考えてみましょう」	・当事者5人 ・専門職5人 計10人 (5グループ)	●演習内容詳細の検討	15時00分～ 16時00分 (60分)	p.41